

Title	ジェネリック医薬品に関する企業への戦略提言
Sub Title	
Author	野本, 麻里子(Nomoto, Mariko) 中村, 洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2077号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2077">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2077</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	中村研究室	学籍番号	80430772	氏名	野本麻里子
(論文題名)					
ジェネリック医薬品に関する企業への戦略提言					
(内容の要旨)					
<p>本研究では、国民医療費の急騰や国立病院の独立行政法人化などの環境変化により、その経済的観点から着目されているジェネリック医薬品に焦点を当て、今まであまり研究されていない企業戦略を分析する。現在までの普及阻害要因を明らかにし、政策及びその下での医療機関・企業の観点から、それぞれが持つ課題について検討し、ジェネリック医薬品シェア向上に向けての戦略提言を行う。</p> <p>研究手法としては、文献研究とインタビューを実施した。そこでは、複数国との制度比較、ジェネリック医薬品を積極的に導入している病院の事例、ジェネリック医薬品市場における企業の事例を研究した。</p> <p>以上の研究より、制度・医療機関・企業の側面から、次のような結論をまとめた。制度面では、(医療機関における) 代替調剤または一般名処方への浸透が必要であり、また品質についての保証体制の確立や政府によるプロモーション活動も促進要因となる。医療機関については、ジェネリック医薬品を差別化要因や経営効率化など経営ツールとして利用し、一方でそれを可能とする薬剤師の教育や医療機関内部のガバナンスの統制が必要となる。</p> <p>企業戦略については、本研究より日本市場におけるプレーヤーを、既存プレーヤー(総合ジェネリックメーカー)・大手先発品メーカー・中堅先発品メーカー・外資系ジェネリックメーカーの4タイプに分類し、タイプ別の提言をまとめた。</p>					
<p>①総合ジェネリックメーカー：中小ジェネリックメーカーの買収戦略とマーケティング戦略の強化(プロモーションと価格戦略を重点的に)及びターゲット設定に関しては先発品と違い、経営者中心の販売戦略を展開すべき</p> <p>②大手先発品メーカー：ジェネリックメーカーの買収が有効(ジェネリック医薬品に関するオペレーション・マーケティングノウハウが必要、別組織・別コスト構造による運営が不可欠)</p> <p>③中堅先発品メーカー：必要とされるものは大手と同様であるが差別化を図るために外資系ジェネリックメーカーとの提携が有効</p> <p>④外資系ジェネリックメーカー：日本市場におけるノウハウや流通経路が不可欠なため、日本のジェネリックメーカーの友好的買収または中堅先発品メーカーとの提携が有効</p>					
<p>このような企業努力によるジェネリック医薬品の浸透が図られることによって、患者負担の軽減・医療機関の経営負担軽減・マクロレベルでの薬剤費削減などの効果が発揮される。</p>					